

編集後記

平成23年度教職実践演習（試行）の実施状況について「報告書」としてまとめることができました。実施した15回の授業について、各回ごとの教職実践演習の授業の進め方、授業内容や方法等を紹介するとともに、外部講師が作成した資料等も添付しました。

教職実践演習は、教壇に立つ予定の4年次学生を対象に教職課程の総仕上げの授業として位置付けられていますが、授業内容や方法等が果たして妥当であるのかどうか、学生への評価や単位認定は誰がどのような観点から実施するのかなどについて検討する必要があるものと思われまます。

また、教職実践演習への学部教員の協力や参加をどのように進めていくのか。平成25年度、本格実施になった場合、受講する学生は150人程度となることが予想される中、担当する教員や外部講師、複数の教室の確保等も課題であります。

残念だったことは、授業に登録した受講者28人のうち、授業への平均出席者は20人前後だったことです。また、終了後にレポートを提出した受講者はわずか6人でした。授業では、教職経験の豊富な外部講師による専門的な講義のほか、学校現場で役立つ演習等を多く設定しましたが、低い出席率に加えて、欠席や遅刻の連絡をしない、課題を期日まで提出しないなど、教員としての基本的な資質に疑問を感じざるを得ない学生が多数みられました。

今年度の課題を踏まえながら、次年度は、教職実践演習の本格実施に向けた最後の試行年度として、より質の高い授業を提供することができるよう努める必要があるものと思ひます。

終わりに、今年度の授業の実施に当たり、講義や演習等でご協力をいただきました外部講師の方々、一日実習でお世話になった附属学校の関係する先生たちに感謝を申し上げます。

担当 附属教育実践研究支援センター 斎藤 孝